

お母さんのためのお役立ちコラム

相手の話を聞き、理解する力を育てるのは、自分の言葉を聞いてもらえる喜び。

家族や友だちなど、相手の話を聞く能力を養ううえで効果的なものに、絵本や童話、伝記などの『読み聞かせ』があります。たくさんの言葉に触れることは、言葉の習得にも大きく影響します。

Ambitious
清水絵津子さん

ビジネスマナー講師、コンサルタント。企業、団体、ゴルフ場等での接遇（ビジネス）マナー・営業マン研修や講演活動を行う「Ambitious」代表。形だけでなく、徹底して現場で即実践出来る、わかりやすい教え方が好評。



一般的に0歳から5歳までは聴覚が柔軟で、耳から得た情報を脳で吸収する能力が最も高い時期だと言われています。この時期にいろいろな本を読み聞かせることで、子どもは多くの言葉に触れ、自ら言葉を使いながら、相手の話を聞く力を少しずつ身につけてい



きます。読み聞かせをする際に大切なことは、本の内容を一方的に伝えるのではなく、途中で子どもが発する言葉にしっかりと耳を傾け、返事をしたり、目を見て相づちを打ったり、微笑んであげること。「ふーん…」とか「そう…」などと、適当な相づちを打ったり、

途中で言葉をさえぎられると、子どもは話す意欲を失うだけでなく、周りの話す内容を聞き取ったり理解する力も身に付きにくくなってしまいます。自分の言葉に対して相手が反応を示してくれるという経験が、「聞く力」を高めていくのです。

蛇足になりますが、テレビやDVDを観る際も決して子どもひとりだけにさせず、できる限り親子で一緒に鑑賞し、折々で子どもに話しかけるようにしましょう。なかでも特に注意したいのがテレビゲームです。テレビゲームをするとドーパミンが多く分泌される可能性が指摘されていて、アメリカでは依存性が高まる恐れがあるとして、幼児期のメディア依存を避けさせる傾向にあります。いずれにせよ、子どもが相手の話を聞く力を身につけていくためには、家族一緒に時間を大切にして、子どもの話を聞いてあげることが何よりも大切です。